

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市富沢児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター	
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和4年度 55,223人(前年度比 132.0%) ・令和3年度 41,848人 ・令和2年度 37,751人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 83,876千円 (70,395千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、地域運営懇談会、児童館利用者座談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。 また、乳幼児親子が利用しやすい環境を整えると共に、職員が行事の内容や雰囲気、支援の良かった点や課題点等を記録し共有した。支援の内容や経過、課題について全職員で共有することで、以前の様子を踏まえた声かけや同じ視点での継続した支援に繋げている。相談内容から保護者のニーズを捉え、講和や講座の開催にも繋げている。	20/19

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター）による自己評価》
<p>【児童健全育成事業】 高学年と中学生のボランティア「トミザワイレブン」は27名の登録になり、子どもたちが自発性に富んだ活動を行うことができた。児童館まつりでは、話し合いの中で「タイムマシン」をテーマに行うことを決め、富沢中学校から30名近いボランティアも参加し、職員と一丸となって様々な時代のコーナー作成と運営を行った。</p> <p>【子育て家庭支援事業】 0歳児の利用が増えたことから、週に1度赤ちゃん専用スペース「BABYちゃお」を定例化。多い時には15組以上が利用し、子育ての悩みや喜びなど職員と共有することができた。少人数育児相談「ふらっとDAY」は、子育てサークルの協力もあり、土曜日に開催。両親で参加するきっかけにもなり、相談後に関係機関へとつなげるきっかけとなった。</p> <p>【地域交流事業】 就園している3歳以上の行事「週末アクティブキッズ」を再開した。地域スポーツ少年団のサッカーチームと共催行事を行った。久しぶりに親子で児童館行事に参加したということもあり、大変喜んでいただいた。今後も地域の中で、幅の広い支援を続けたい。 地域大人ボランティア「レインボーズ2022」の活動では、畑づくりからちびっこまつりの企画など多岐にわたり活動していただいた。年度末には自主的に説明会を企画し、新メンバーも加わった。地域のネットワークの広がりを感じた1年であった。</p> <p>【放課後児童健全育成事業（児童クラブ）】 登録児童が300名を超え、プレハブサテライトを含む3か所での運営が本格的に始まった。コロナ禍での夏休みに充実した思い出ができるように、太白区家庭健康課やオンラインでの講座を取り入れた。毎月のカレンダーづくりではリサイクル素材を取り入れ、SDGsについて考える時間にした。 毎日の全体ミーティングを欠かさず、職員全員が子どもたちの様子や安全管理について把握できるように工夫しながら運営を行った。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、中高生世代が児童館に再び来館できるきっかけとなるよう、中高生世代と対話を持ち子ども達の声を聞きながら、「中高生おかえり みんなの笑顔が今ここに」として、料理やパトミン・フリースロー等のスポーツ対決、手芸等を体験できる機会を提供した。また、土曜日の午後中高生世代のブースを設定したり、交流スペースは子ども達だけで過ごせるようにしてゆっくりと児童館での時間を楽しめるよう環境を整え、地域における子どもの居場所作りに積極的に取り組んでおり、定期的な利用や新たな利用者の増加に繋がっている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、不定期で行っていた「BABYちゃお」を令和4年度から毎週木曜日の午前中に定例化して実施した。広いスペースの確保や赤ちゃん向けの玩具やベッドメリー等を複数用意して、親子がゆっくりと過ごしながら保護者同士の交流が持てるよう支援している。「BABYちゃお」の活動の内容や環境構成、乳児親子や保護者の様子、職員の支援等について日誌として記録し、職員間で共有したり次の支援へ繋げている。また、「つくっちゃお広場」を、行事ではなく自由来館時の遊びのコーナーとして設定し、遊びの選択肢の一つとして、親子のペースで制作遊びができる環境を整えた。これらの取り組みは、親子が楽しく児童館で過ごし安心して子育てができる環境作りと、職員への質の向上にも繋がっており評価できる。</p> <p>地域交流推進事業においては、乳幼児や大人を対象に、コロナ禍で中止していた児童館の図書の貸し出しを再開した。また、「地域大人ボランティア・レインボーズ2022」さんの協力のもと、児童館まつりやちびっこまつりを開催した。児童館まつりでは、児童クラブの保護者や富沢中学校の生徒30人以上がボランティアとして参加して、児童や地域の方が楽しみながら触れ合える機会となった。ちびっこまつりは、それぞれの年齢の親子が楽しめるように年齢別に実施して、好評を得た。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、リモートによる、お楽しみ会やダンス発表・工場見学クイズ大会等を開催して、学年毎に本館とサテライトで分かれて過ごしている子ども達が異年齢交流を図れるように、工夫している。また、サテライト独自の企画として、「クラブforサテライト」では、学年に創作活動を楽しめるような内容を考えて提供したり、講師を招いて竹とんぼ作りをする等普段できない体験の機会も提供した。「ブックforサテライト」では、学年に合わせて選書をし、様々な本に触れる機会を提供する等、いずれの環境においても毎日を楽しく過ごす工夫を行っている。</p> <p>館内研修を年間計画に沿って多彩な内容で実施し、職員の資質向上に努めている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課